

特集 本シェルジュが読む中小企業診断士の未来予想図

序章

来たるべき診断士4.0を探る



村上 知也
神奈川県中小企業診断協会

1. 1.0から4.0へ時代は進む

10年前にビジネス書書評の本シェルジュ (<https://bookcierge.jp/>) の運営を始めました。メールマガジンで配信を続けていた本シェルジュも、今月からLINEでの配信をスタートしました。小さな話ですが、読者にメッセージを伝える手段も10年で変わりました。

さて、もっと大きな話にすると、2045年にシンギュラリティが来るといわれています。カーツワイル氏の説によれば、人工知能が人間の知性を超えるといわれるのがこの時期です。最近では、人工知能 (AI)、自動運転、IoT、ビッグデータなどさまざまな技術革新が行われ、これからの世の中を大きく変えようとしています。2020年には一部乗用車の自動運転サービスが開始され、高速通信の5Gも始まります。無人店舗も一部では展開し始めました。

そのような中で、世の中には4.0があふれているように見えます。「インダストリー4.0」、「金融4.0」(銀行4.0)、「Web4.0」、「マーケティング4.0」など、次世代のものを4.0と呼ぶことが増えました。すでに5.0が登場している分野もありますが、4段階に分けて時代を整理していくのはわかりやすいでしょう。

中小企業の経営においても、時代の流れに応じた環境変化をとらえて、柔軟に活用・追随していくことが求められています。適者生

存です。その中で、次世代の中小企業診断士はどのような役割を果たしていくべきなのでしょう。さしずめ、現在の中小企業診断士を第3世代、次世代を第4世代とすると、次のように整理できるかもしれません。

- ・ 診断士1.0：行政を主体として中小企業を指導する時代
- ・ 診断士2.0：商業、工鉱業、情報の3分野で中小企業を支援する時代
- ・ 診断士3.0：3分野の境界がなくなり、総合的に支援していく時代
- ・ 診断士4.0：これからの中小企業診断士 (終章で詳しく)

どの時代が良かったという話ではなく、中小企業診断士でも、どのようなテーマにおいても時代の変化に対応していくことは必須と考えられます。

変化に対応していくためには多様な視点を持ちたいものですが、そのための読書は欠かせません。しかし、読書のスタイルはすっかり変わりました。我が家には5年前は本棚が6つあり、いつも家中が本であふれていました。それが今では本棚は1つになり、電子書籍のKindleの中には1,300冊の本が入っています。お風呂でも防水のKindleで読んでいます。少しさびしい気もしますが、環境変化に対応してきた結果です。

そこで今回の特集では、4つの分野における時代の変遷の解説とともに、その時代をわかりやすく伝えてくれる書籍を紹介します。

前段として私がお勧めする1冊は、2019年8月に亡くなられた瀧本哲史先生の読書に関する書籍です。

『読書は格闘技』

読書は格闘技



瀧本 哲史 著
集英社

読書とは、単に受動的に読むのではなく、著者の語っていることに対して「本当にそうなのか」と疑い、反証する中で、自分の考えを作っていく知的プロセスである。本書は、あるテーマについてまったく異なるアプローチの本を2冊紹介し、それを批判的に比較検討するスタイルで書かれている。

変化に対応していくためには、異なる視点を持って情報に接することが求められます。一方向の視点だけでは偏ってしまいます。今回の特集で1.0~4.0という比較をしていきたいのも、進化したことを認識するだけではなく、時代に応じてものの見方が違って来たことを認識したいからです。

そのためには、『読書は格闘技』のような本の読み方は物事への理解を深めると思います。本書では、組織や心、グローバリゼーション、時間管理術、才能、正義などさまざまなテーマにおいて書籍を比較しています。たとえば、マーケティングでは以下の2冊を比較しています。

- ・アル・ライズ、ジャック・トラウト著『ポジショニング戦略 新版』
- ・ジェフリー・ムーア著『キヤズム』

この2書は診断士試験でもよく取り上げられるテーマですので、読んだ方も多いでしょう。両書は執筆された時代背景も異なれば、マーケティングとして主張する内容も異なっています。読書と格闘するために、両書の主張を読み解きながら、どこが違うのか、なぜ違って来たのかを考えることで、次の新しい発見につながるのではないのでしょうか。

この2冊の名著も執筆されてから時間がたち、時代に合わなくなっている点も見受けら

れます。一例を挙げれば、インターネット時代が進んだことで企業と顧客だけではなく、顧客同士が個別にコミュニケーションを取れるようになった点などです。

理論や主張が間違っていたのではなく、世の中が変化しているため、我々の考え方もアップデートしていかなければなりません。

2. 次章からの全体像

今回は、診断士試験の分類に合わせて、組織人事、マーケティング、生産・技術、財務の4つのテーマの4つのステップを取り上げていきます。下表は次章以降の全体像です。

	1.0	2.0	3.0	4.0
組織人事	企業戦士の時代	人が組織を選ぶ時代	個人主義時代	個人事業主時代
マーケティング	製品中心	消費者志向	価値主導	自己実現
生産・技術	手工業から機械に	消費財の大量生産	デジタル化	機械が人間の仕事を肩代わり
財務	銀行と簿記の誕生	英国に現れた「鉄道マニア」と「減価償却」	「管理会計登場」と「企業価値」	新しい金融プレイヤーの登場

それでは、4つの4ステップをお楽しみください。

村上 知也

(むらかみ ともや)

2010年中小企業診断士登録。株式会社にぎわい研究所代表取締役。株式会社NTT データを退職後、独立。企業のIT化支援や、Web マーケティング分野を得意とする。特に小規模事業者向けに、お金をかけずに行う集客の支援に取り組んでいる。

